

東京都教育ビジョン（第2次）

について伺います。全体を見て各事業はやってほしい、やらないといけないな、と思うものがかなりあって、盛り込んだ教育庁の担当者の思いというのは理解できます。私も上の子が小学校2年生ですので、「スクールガード」「職場体験のキャリア教育」「情報モラル教育」というのは進めてほしい事業です。また、特別支援教育の「個別の教育支援」や「教員研修」「外国人児童の支援」「不登校対策」「暴力行為対策」など当事者でなくても頑張っているものが盛り込まれています。

しかし、気になるのはこれだけの事を現行の教職員数できちんと対応できるのか、という量的評価をどの段階でしていくのかということのことです。そのあたりを配慮しているのか「外部人材の導入・活用」という単語が沢山入っています。「スクールガード」やP57「特別支援学校の外部教育資源による支援」などがそれですが、学校だけで全て収まるものではないというのは事実だと思います。今後どのような体制整備による配慮があるのか伺います。

答弁の中で「国の定数改善の動向」という話がありました。確かに、昨年度には複数の地方自治体の議会で「次期教職員定数改善計画の実施」の要望書がでるなど、国の予算確保の動向が背景として気になるようです。

私も子どもの学校で学校図書ボランティアに参加したり、NTTの行う親子参加のネット詐欺被害防止講座などに参加していますが、校長先生が活動を見に来てくれたり、NTTの方と打合せしたり、決して任せっぱなしでは無い状況です。おそらく、どのボランティア活動も教職員がタッチせずに済むものではないと思います。

地元小平市では1クラス35人が適当であると考えていますし、私も現実に1クラスは35人に近くなっていると思っています。もちろんこの35人学級制は1度に教職員人材が必要となって予算も大変ですから相応の準備が必要なわけです。今回の懸念は学校全体の人数の話です。本来ならば状況に応じて若干変動させられれば良いのですが、文部科学省の定数設定の関係で課題があるようです。

現在の医療や介護現場での現業技術者の不足と同様な状況にならないように、都はきちんと業務量を考え、事業開始後の体制を確認して現況を把握し、対応できるように努めることを求めます。

多摩養護学校校舎増築工事（契約）

Q1

参考にまず今回の入札状況と落札率を伺います。

Q2

校舎が単体として1棟増えたりする形の増築や既存校舎の一部を延長した形になるのはよくある方法だが、今回の設計でグラウンドをはさんで囲む形になっているのは珍しい気がする。なぜこのような奇抜な設計になったのか伺う。

Q3

グラウンドが中庭のように囲まれている形になっているのだが、授業内容や学校生活の上で問題ないのだろうか。もちろん特別支援学校はその他の学校とは授業内容等同じではないかと思うので、単純な比較検討はできないが、実際にこのような形のグラウンドで適切な授業ができるのか伺います。